

## 令和3年度 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和4年1月6日

協議会名: 本庄市交通政策協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
朝日自動車株式会社	本庄北地域デマンド	○デマンド交通の周知と利用促進のため、本庄市公共交通ガイドを作成し、自治会・公共施設等へ配布した。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標利用者数:13,000人 R3年度利用者数:9,809人 目標利用者満足度: 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R3年度利用者満足度: 満足 68% 普通 18% 不満 8% 目標に対する実利用者数の割合は75.5%で、利用者数は前年度比3.1%減となった。アンケート調査において満足は前年度と比べ23%増、不満については約16%減となっている。コロナ禍により利用者数は減少したが、移動手段を持たない高齢者等、交通弱者の移動手段としての役割を果たしている。	新型コロナウイルス感染症の影響により、なるべく外出を控えるといった行動変化が利用者数に表れているが、移動手段を持たない交通弱者にとって買い物、通院といった日常の足となっているデマンド交通は、コロナ禍の中にあっても一定の利用がある。今後は、地域公共交通計画の策定に向けたアンケートや利用状況の推移を見ながら、予約システムや車両数の見直しなど利便性を向上させる見直しを検討していく。
	本庄南地域デマンド	○評価検証の一環としてアンケートを実施した。			
	児玉市街地デマンド	○デマンド交通の利便性を向上させるため、住民同士の支え合いを考える場(生活支援体制整備協議体)に参加し、情報交換を行った。			
	児玉山間地域デマンド	○HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。			
本庄観光株式会社	本庄シャトル便	○評価検証の一環としてアンケートを実施した。  ○HPや駅自由通路に利用案内を掲載し、利便性の向上と利用促進を継続して図った。	A 計画に位置付けられた事業は適切に実施された。	B 目標利用者数:16,000人 R3年度利用者数:9,954人 目標利用者満足度 満足 85%以上 不満足 現状より減少 R3利用者満足度 満足43% 普通55% 不満2%  目標に対する実利用者数の割合は62.2%で、前年度比1.6%減となった。前年度と比べ満足の割合は減少したが、不満は減少した。コロナ禍により利用者数は減少したが、鉄道利用者数の減少も交通結節点(本庄駅、本庄早稲田駅)を結ぶ本路線の利用者減の一因と考えられる。	満足又は普通とアンケートで回答した利用者が98%となっている。今後もしばらく新型コロナウイルス感染症の影響により以前より低い利用者数を推移すると予想される。今後は、地域公共交通計画の策定に向けたアンケート等で寄せられる意見を踏まえ、時刻表の見直しなど利便性を向上させる見直しを検討していく。